

## 【貴重な沖縄の水】

沖縄県 西原町立西原中学校 一年 レイフイールド 快かい

数日前、新聞で沖縄の建物の屋上に設置された水タンクの写真を見た。それはコンクリート製やステンレス製で、丸い形や四角い形のタンクもあれば、宇宙船のような形の物、給水塔のように高く大きな物もあった。これらは水道水をあらかじめ貯めておくタンクであり、給水制限がなくても困らないようにするためで、沖縄独特のものであるらしい。この話を読んで、僕はとてもおどろいた。僕達の住んでいる沖縄が水を得るのが難しい島だとは思ってもいなかったからだ。沖縄はよく雨が降るので、生活用水はあり余るほどあるのだと思っていた。

母の話によれば、母が小学生くらいの頃までは、たびたび給水制限があったそうだ。母の実家には幸い水タンクと、天水を貯めるタンクがあったが、長時間断水が続くと、母はそのうち水がなくなるのではないかと不安になったという。沖縄県企業局のホームページを調べてみると、実際、昭和四十七年から平成五年の間に、夜間断水や二十四時間隔日給水が計千百三十日も実施されている。

沖縄では土砂降りの雨もよく降るのに、なぜ水を得るのが難しく、こんなに断水や給水制限があるのかと僕は不思議に思った。先ほどの新聞記事によれば、沖縄の川は短く、川幅がせまいため、水の確保が容易でないためだという。僕が住む西原町には小波津川がある。西原中学校の校内も流れる小波津川は、川幅が三、四メートルしかなく、長さも三・八キロメートルほどである。何百キロも流れる日本本土の川とはかなり違う。しかもこの川は、大雨や台風の際に時々氾濫を起こすが、普段の水深はとても浅く、そこから水を取ることは難しいように思える。

しかし、現在沖縄には、水源になる十一のダムが建設されていて、以前のような給水制限はめったにない。蛇口をひねればいつも水が出てくるので、僕は普段水に困ることもない。そのためか、水タンクのことや、沖縄の水事

情などについてあまり知らなかったし、この限りある資源について深く考えることもなかった。

沖縄にダムはできたが、沖縄の水不足の問題がそれで全て解決したわけではない。降雨量が少ないと、ダムの貯水率が下がり、節水が呼びかけられるようになる。大きなダムのない離島はもつと大変だろう。水タンクの水も底をつき、井戸の水も干上がれば、沖縄本島か日本本土から水を運んでくるか、海水を淡水化させて使うしかないのではないだろうか。

僕は、沖縄は海に囲まれているので、海水を淡水化する技術は利点があると思う。現在県内には七カ所の海水淡水化施設がある。しかし、海水の淡水化には費用がかかり、海水を処理した後の塩分や化学物質が高濃度に含まれた廃水が環境に悪影響をおよぼすなどの問題があるそうで、大規模に行われてはいない。僕は、将来この技術が進歩して、小さな離島に住んでいる人達でも水不足に困らないようになってほしいと思う。それまでは、一人一人がこの貴重な資源を無駄にしないように心がけることが大切だ。

将来水不足が解消されるまで、いざという時には、僕達は屋上の水タンクのお世話になることだろう。